



みなみっ子

9月の生活目標：「規則正しい生活をしよう」

NO. 10

四万十市立中村南小学校 (TEL:34-7400)

♪ 四万十の水ゆたかなる

その岸にわがまなびやは



♪ 四万十の水ゆたかなる その岸にわがまなびやは ま白くもかがやき立てり
ああ、われら、広き世界を 見つつ学ばん 中村、中村南小学校 ♪

これは、中村南小学校の校歌の一番の歌詞です。
先々週から、朝の会や音楽の授業の最初に、どの学級からも校歌の歌声が響いています。

例年だと、この時期には、運動会の開会式で歌うために、校歌の練習を全校児童でしていましたが、今年は新型コロナウイルス感染症対策のために、開会式での校歌は歌わないことにしましたが、自分たちの学校の校歌をしっかりと歌うことは、とても大事なことだと考え、朝の会や音楽の時間に、すべての学級で校歌を歌っています。



学校では、新型コロナウイルス感染症対策も行いながら、子どもたちの「知・徳・体」の健やかな成長のために、学習内容や活動内容を工夫して、できる限りの教育活動を行っていきこうと教職員で確認をして取り組んでいます。

さて、この中村南小学校の校歌ですが、私は、1番から3番までの歌詞で、いつも心に留めているところがあります。それは、どこかというと「ああ、われら、広き世界を 見つつ学ばん(1番)」「ああ、われら、日本のこころ たもちて生きん(2番)」「ああ、われら、きよき命を 伝えてゆかん(3番)」のところですよ。

この歌詞にあるように、中村南小学校の子どもたちを「広い世界を見て学ぶ子」「日本の心をもって生きる子」「きよい命を伝える子」に、そして「知・徳・体のバランスのとれた子ども」に育てていかなければと、校長室にある校歌の歌詞を見ながら、いつも肝に銘じています。



先週の金曜日、私が廊下を歩いていると、音楽室から素晴らしい歌声が聞こえてきました。音楽室に行ってみると3年2組のみんなが、元気よく校歌を歌っていました。歌を歌う姿勢や終わったあとの態度も、大変素晴らしかったです。

そして、次の時間、校長室まで歌声が聞こえてきたので、またまた音楽室に行くと、今度は6年生が、6年生らしい歌声を響かせていました。歌う姿勢や態度も最上級生らしい大変、立派な態度でした。「さわやかな あいさつ歌声 ひびきます」
今年は運動会で、保護者の方に、校歌を歌う子どもたちの元気な歌声を聴いてもらうことができないのが、残念です。

☆☆中村南小学校の校歌と校章について☆☆

中村南小学校は、昭和57年（1982年）に開校し、来年度、創立40周年を迎えます。

中村南小学校の校歌と校章は、開校した昭和57年10月に制定されました。

校歌の歌詞は、当初は広く市民から募集していたようですが、入選作品がなく、当時、日大付属豊山高校で先生をしていた国見純正先生（中村市有岡出身）に、作詞を依頼してできたものです。


そして、その歌詞に高知県出身の作曲家 平井康三郎先生（平井先生は、『とんぼのめがね』などの多くの作曲をした方で、日本全国の数多くの校歌を作曲されている先生です。高知県でも多くの学校の校歌を作曲されています。）が、作曲して完成しました。



校歌ができた年に、平井先生を迎えて校歌発表会が行われています。その発表会で、その時の6年生が、「平井先生、素晴らしい校歌をありがとうございました。四万十川の流れるように、誇りとしていつまでも歌い続けていきます。」とお礼を言ったというのが、当時の高知新聞の記事にありました。

ぜひ、中村南小学校の伝統として、当時の先輩の思いも大切にしながら、校歌を歌ってほしいと思います。

また、校章は、当時の中村南小学校6年生が図工の時間にデザインしたものの中から選ばれて決まったそうです。



この校章は、人の和を象徴するブルーの円を基調に、円の中に南小学校の『南』の字を浮き立たせたものです。また『南』の下のひし形と円の組み合わせで中村市の『中』、小学校の『小』とも読ませるデザインとなっています。（当時の高知新聞の記事より）

運動会では、児童会のみなさんが、この校章の入っている校旗をもって行進します。

◎運動会に向けての練習

朝晩は、だいぶ過ごしやすくなっていますが、まだまだ暑い日が続いています。そんな中、全校練習や各学年での種目練習など、毎日、運動会の練習を行っています。



今年は、新型コロナウイルス感染症対策のため、5・6年生の組体操がありませんが、「南小ソーラン2020」の練習をしています。1・2年生は「パプリカ」を、3・4年生は「よさこい ～君がスターだ～」を踊ります。

今年の運動会は、午前中のみで開催で、競技種目も少なくなっていますが、子どもたちの思い出に残る運動会となるよう取り組んでいます。今年は総練習もありませんが、子どもたちは限られた時間の中で、一生懸命練習をしています。当日は、子どもたちの頑張る姿に温かい応援をよろしくお願いいたします。

体育主任 喜多 真明

◎中村南小学校の鼓笛隊の音色は・・・

新型コロナウイルス感染症対策のため、児童朝会は放送でしているのですが、先日の児童朝会で、子どもたちにこんな話をしました。

みなさん、「音色」という言葉を知っていますか。漢字で音の色と書くんですが、音には、色がありません。目を凝らしても色は見えません。でも、校長先生は、この前、音楽を聴いて、色が見えたんです。それは、どんな色かというと、鼓笛隊の皆さんの練習する態度や姿勢から、中村南小学校の鼓笛隊の色が見えました。中村南小の鼓笛隊の色が見えたんです。

鼓笛隊の練習を始める前に、部長の森脇牡丹さんが、鼓笛隊の心得を全員で言ってから練習を始めています。

その心得は、次の5つです。

- | | | |
|----------|----------|---------|
| 1 あいさつ | 2 返事 | 3 時間を守る |
| 4 すばやい行動 | 5 楽器を大切に | |



この心得は、音楽には関係ないことだと思っている人もいるかもしれませんが、このことが一番大事なことだということを鼓笛隊のみなさんから校長先生は、教えてもらいました。

豊かな音楽、人を感動させる音楽を演奏するには、「あいさつが大事だし、返事が大事だということ、時間を守ったりすること、心が大事だということ」を教えてもらいました。

優しい気持ちで演奏をすると優しい音楽になるし、乱暴な気持ちで演奏をすると乱暴な音楽になるということを聞いたことがあります。例えば、いつも「ありがとう」と言っている人やあいさつがきちんとできる人の演奏と友達の悪口を言っている人の演奏は、違うようです。

その人の心の色が、音の色、音色となって表現されるんですね。

校長先生は、鼓笛隊のみなさんの練習している態度や姿勢を見て、きっとこの鼓笛隊38名のみんななら、聴いている人を感動させる音楽を演奏することができるなど確信しました。今年は、新型コロナウイルス感染症対策のために、いろいろな行事が中止になって演奏する機会が減っていますが、鼓笛隊のみなさんの音楽を、一人でも多くの人に聞いてもらえる機会を校長先生もできるだけ作りたいなと思っています。

心を一つにして作りあげる音楽には、豊かな色があり、それが形には残らないけれども、一回限りの作品となって、人々の心に残ります。鼓笛隊のみなさんには、聴いている人の心に残る演奏を期待しています。鼓笛隊のみなさん、これからもがんばってください。

運動会では、鼓笛隊が演奏する時間をとっています。練習時間が少ない中、鼓笛隊のみなさんは、朝の練習や放課後の練習を一生懸命してきました。

運動会当日に、どんな演奏を披露してくれるか楽しみです。運動会では、中村南小学校の鼓笛隊の音色をお楽しみください。

起震車体験

☆ 2・5年生が、震度6強の揺れを体験しました。

10日(木)に、2年生と5年生が、高知県トラック協会の方と四万十消防署の方に協力していただき、起震車体験をしました。

まずは、四万十消防署の方から説明を聞いたあと、4人ずつが起震車に乗り、震度6強の揺れを体験しました。東日本大震災の揺れと南海トラフ地震の2種類の揺れを体験した子どもたちでした。



多くの子どもたちは、これまでも起震車体験をしたことがあったようですが、今回体験をして、改めて「地震の揺れの大きさ」「地震の怖さ」を感じることができたようです。

この起震車体験が、「すごい揺れた!」「怖かった!」で終わることなく、「こんな大きな地震が起きた時にどうするか」「こんな大きな地震には、どんな備えをしないといけないのか」等を、子どもたちには考えてほしいと思います。

南海トラフ地震は、90年から260年くらいの周期で起きており、いつ起こるのかは誰にも分からないけれども、必ず起こる地震です。この南海トラフ地震が、30年以内に起こる確率は、80%とされています。

9月11日には、全校児童で地震の避難訓練を行う予定でしたが、雨のため、延期となりました。10月2日(金)に避難訓練を行う予定です。

■ 田辺豊建設 様 ありがとうございます ■

四万十市具同の田辺豊建設様が、四万十市教育委員会を通じて、社会貢献事業の一環として、本校の環境整備を無償でしてくださいました。

当日は、校庭周辺の木々の枝の伐採等をしていただきました。今年度は、愛校作業が中止となり作業等ができていませんでしたので、本当に助かりました。

ありがとうございます。

